

令和7年度 清原中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

- ①活力ある生徒
- ②よく考え、創造する生徒
- ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- ④たくましく未来を切り拓く生徒

(2) 具体目標（具体的な生徒像など）

- ①頑張る人
- ②考える人
- ③思いやりのある人
- ④挑戦する人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実を図り、望ましい人間関係の育成に努める。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- (3) 緑に恵まれた「清原の杜」の環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (4) 生徒理解を基盤に、道徳教育・人権教育・発達段階に応じた教育相談の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (6) さくら連絡網や学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- (7) 教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンスの徹底に努める。
- (8) 教職員の働き方改革の推進に向けて、同僚性を高め、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫やICTを活用した業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人や地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】 ～職場は明るく楽しく 仕事は厳しく誠実に～（職場の和を大切に）

- ・笑顔と活力ある生徒の育成を目指した「笑顔と活力ある学校づくり」の推進
- ・「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいた「地域とともにある学校づくり」の推進
- ・ゆとりをもった計画立案、共通理解や教育活動の精選による生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減
《学校スローガン 『GO ALL OUT ～一生懸命はかっこいい～』》

【 学習指導 】

- ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な定着、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成
- ・宇都宮モデル（はっきり、じっくり、すっきり）やICT（1人1台端末を含む）を効果的に活用した授業の質的向上の推進
- ・学習活動に自主的・主体的に取り組む、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成

【 生徒指導 】

- ・人権尊重を大切にした「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実
（努力を）認めて→（達成状況を）褒めて→（次に向けて）励ましての実践＝自己肯定感や自己有用感の向上
- ・規範意識を高め、思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成
- ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止

【 健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・自らの命を守り抜くための危機予測・回避能力の育成（安全教育・防災教育・交通安全指導の充実）
- 健康教育及び安全教育を推進することによる、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ・感染症予防の徹底と望ましい食習慣の定着（食に関する指導の充実と自己管理能力の育成）

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1 - (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①授業において「本時の目標」「振り返り」を徹底し、生徒にとって本時の授業の内容が把握しやすいようにする。 ②ICTの特長である意見の共有や対比を通して考えを深めさせる。 ③授業中は、教師の指示や説明を集中して聞くようにさせるとともに、落ち着いた学習環境作りに努める。 ④グループで話し合う場面や発表する場面を意図的・計画的に設定し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は90.6%で数値指標を0.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 年度初めに、学習の決まり事「2分前着席、きちんと起立、礼、指名されたらハイ」の確認を行い、徹底を図る。1学年に対しては、家庭学習の推進を図る。話の聞き方、話合いの仕方、発表の仕方などの基本的な学習態度、学習技能の育成を図る。「自主学习ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、A1ドリルの活用などにより、一歩踏み込んだ毎日の家庭学習を習慣付ける。
1 - (2) 豊かな心を育む教育の推進	○A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①道徳科の授業で思いやりについて考えさせ、日常生活において思いやりの心を態度で示す道徳的実践力を育む。 ②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。 ③給食活動や清掃活動などの当番活動や係活動において、互いの役割を尊重する意識を高める。 ④生徒の活動をしっかりと観察し、思いやりあふれる行動を日常的に称賛する。 ⑤学校行事後は、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くとともに、お互いに認め合えるようにする。 ⑥保護者や地域住民にも、学校ホームページを活用し、思いやりある行動を広報する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は93.2%（昨年度より1.3ポイント↑）で数値指標を3.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別の教科道徳の授業で思いやりの心について考え、学校行事、当番活動、清掃活動などで、道徳の実践力を育むとともに、教職員が望ましい言動の模範を示し、生徒の言動について日常的に気を配る。また、学校生活の中での、生徒の思いやりあふれる行動を称賛できるよう、生徒の活動をしっかりと観察する。 行事等の事後指導では、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くようにする。保護者や地域住民にも、学校ホームページ等を活用し、思いやりのある行動を広報する。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①学級活動では、様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせたり、将来設計を行ったりできるように指導する。 ②将来の目標に近づくための進路実現を目指して、計画的なテスト前学習に取り組ませ、テスト後の結果の振り返りに、粘り強く取り組ませる。 ③「生徒が前面に出る」ために、関わる教職員は成功体験させるための入念な準備を行い、「黒子」に徹することで、「見守り・見届ける」指導の充実を図る。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は83.1%（昨年度より3.7ポイント↓）で数値指標を6.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も拡充項目とする。生徒の実態に応じた個別学習などの指導の充実を図り、定期テスト等で自身の能力に応じた目標を設定するように指導し、その成果が実感できるよう心がける。また様々な学校行事、校外活動、部活動等を通して、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組むことのできる生徒の育成を目指す。
1 - (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	○A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒や保護者へ健康や食事の重要性について啓発を行う。 ②朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、委員会等でも呼びかけを行うことで、健康や食生活に対する意識を高める。 ③安全教育の充実を図るとともに、実技や実験、実習作業を伴う授業においては、生徒自身の危機予測や危機回避などの資質・能力を高めるよう、安全に配慮する指導を徹底する。 ④年間を通して常時換気を行い、エアコンを適切に使用しながら、夏季に熱中症計を設置したり、冬季には加湿器を設置したりして、熱中症や感染症の予防に努める。 ⑤避難訓練を年2回行い、注意すべき点や安全に関する講話をすることで、災害安全や防災に対する関心を高め知識を身に付けさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は89.1%で数値指標を0.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強化週間を設けたりして望ましい生活習慣の育成を図る。 感染症予防については、マスク着用・手洗い・換気の指導等を継続して行う。 教員の働きかけのみならず、生徒が自ら、健康や安全に気を付けられるように、専門委員会等で対策を考え、生徒主体の啓発活動を行えるように支援する。 年2回の避難訓練や日頃の防災教育の充実を図り、災害安全や防災への関心をより高めさせる。
1 - (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上	①学級活動や道徳で、自己を見つめ、自分が社会のためにできることは何か考えさせ、未来を担う社会人を目指して、夢や目標をもつことの大切さを理解させる。 ②地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ、ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。 ③地域未来会議や宇都宮学の授業などを通して、社会に参画し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は88.7%で数値指標を3.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 学級活動や生徒会活動を通して、自己肯定感の育成を図る。地域行事や社会体験学習等を通して、地域貢献の意義、働くことの尊さを実感させ、主体的に自己の在り方や生活について考えさせる。また、「地域未来会議」や「宇都宮学」を通じて、地域の方々と世代を越えて、学校や地域の未来などについて議論することで、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。ボランティア活動の一層の充実を図る。

2 - (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上	①英語の授業でALTやT2との活動の際、small talkを使って英語でコミュニケーションをとる場を計画的に設定する。 ②英語の授業で、教員が発する英語の指示に生徒が英語で反応する学習の場面を多く設定する。 ③「ALTとコミュニケーション週間」を年に3回設定し、英語を積極的に使う機会を設ける。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は70.5%（昨年度より7.1ポイント↓）で数値指標を14.5ポイント下回った。 【次年度の方針】 普段の英語の授業から、自分や身の回りのことについて、英語で表現する機会（話す、書く）を多く設ける。特に、文章で記述する表現活動の実践を推進する。また、ALTとの活動の際、パフォーマンステストやsmall talkを通じて、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上	①各教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都宮の良さに気付くようさせる。 ②「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ③学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。 ④「宇都宮学」の学習の様子をホームページや「学年だより」で発信したり、保護者会等で生徒が発表したりする場を設定する。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は81.6%で数値指標を1.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。LRT「ライトライン」や郷土食などの地域の特長を生かしながら、カリキュラムマネジメントの視点から、教科等横断的な学習の充実を図る。今年度同様、保護者会やオープンスクールなどで、生徒が発表・発信する機会を多く設けていく。
2 - (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上	①ICT教育チームを中心に、ICT支援員を有効活用し、校内のICT教育の体制を整え、教員のICT活用指導能力を高めていく。 ②教員は、各教科で少なくとも1回は図書室を活用した授業を行う。 ③年度当初、タブレットの正しい活用の仕方を生徒に指導する。 ④年度当初、1年生を対象とした図書館使用のガイダンスを実施する。（国語科との連携）	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は67.3%（昨年度より0.5ポイント↓）で数値指標を17.7ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、拡充項目とする。ICT支援員と連携しながら、教員のICT活用指導能力を高める。また、各教科でA1ドリルの活用を目指す。 図書室の蔵書の更なる充実を図り、図書資料の活活性化を図る。 オンライン学習のガイドラインを整備し、いろいろな事情により教室で学習できない生徒の学びの保障を図る。
2 - (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上	①「持続可能な社会」を目指すための目標(SDGs)についての掲示物やスライドを作成し、生徒に啓発する。 ②教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を高め、実行につなげる。 ③緑化委員会による学校敷地内の花壇の整備や松のこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ④避難訓練を年2回行い、事後指導では、生徒全員の状況を丁寧に把握し、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は74.1%（昨年度より4.5ポイント↓）で数値指標を5.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、「持続可能な社会の構築」について、教職員や生徒の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連付けることで、生徒にも身近な課題として意識させる。また、防災についても触れる機会を増やしていく。 日常行っている、ごみの分別やリサイクルボックスの活用、ペットボトルキャップ回収が、「持続可能な社会」の実現に向けた行動であることを、再認識させる。 給食時の配膳台拭きを複数回使用できる不織布に変更したり、牛乳パックのリサイクルを可能な範囲で再開したりする。
3 - (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答95%以上	①教育相談・特別支援教育部会において、生徒の状況についての情報を継続的に共有していくとともに、関係する学年・教職員との連携を図る。 ②特別な支援を必要とする生徒について、学校生活で配慮が必要な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援する方法を考える。 ③かがやきルームや教育支援教室の適正な運用を図る。 ④特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は97.9%で数値指標を2.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行っていく。かがやきルームや校内教育支援教室の活用の仕方について、共通理解を図るとともに、学級担任との連携を強化していく。また、教育相談・特別支援教育部会を中心に、情報の共有と、必要に応じて外部機関との連携を図る。
3 - (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上	①学級担任は、いじめを絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行うとともに、「個性」について考え、人との違いをより深く考えさせる場を道徳や学級活動等で設定する。 ②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。 ③いじめアンケートやWEB QU検査の結果、日常の観察から、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。問題行動に対しては見逃さずにその場で指導する。 ④保護者会や学校・学年・生徒指導だより・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。 ⑤いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を全学級が実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、全校でいじめ根絶集会を行い、いじめ根絶につなげていく。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は93.7%（昨年度より0.5ポイント↓）で数値指標を1.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 いじめアンケートやWEB QU検査の結果を活用し、定期教育相談等を通して、いじめを見逃さず認知できるようにする。また、いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、生徒主体のいじめ根絶集会を年2回行い、いじめ根絶につなげていく。いじめ根絶に向けた本校の取組を、各種たより、ホームページ等を活用し、保護者、地域に積極的に発信する。

<p>3 - (2) いじめ・不登校 対策の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない 学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%</p>	<p>①学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表などで生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛することで、生徒にとって居がいのある学校生活となるような学級経営を行う。 ②教職員同士で生徒の望ましい言動を伝え合い、生徒の自己肯定感を高めることで、学校全体として生徒を見守り、見届ける指導をする。 ③保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。 ④学級担任が学級の問題や課題を一人で抱えこまず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え取り組めるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は93.8%（昨年度より2.5ポイント↓）で数値指標を6.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 日頃から自己肯定感を体感できる居がいのある学級経営を心がけるとともに、学級担任が学級の問題や課題を一人で抱え込まず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え、取り組めるようにする。 教育相談・特別支援教育部会を中心に、配慮生徒への情報を共有し、早期対応ができるよう、教職員が適切に連携していく。</p>
<p>3 - (3) 外国人児童生徒 等への適応支援 の充実</p> <p>3 - (4) 多様な教育的 ニーズへの対応 の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、 活気があり、明るくいいきよとした 雰囲気である。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>①学校生活全般において教職員が意図的・計画的に生徒の頑張りを良さを認め、励まし、称賛する教育の推進を心がけ、生徒が自己有用感を実感できるようにする。 ②教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組み、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。 ③生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出るよう、見守り助ける指導にあたる。 ④学年主任は、学年の生徒たちが生き生きと活躍できる明るい雰囲気となるよう、各学年の諸活動を推進し、自分の学校に誇りをもてるようにする。 ⑤教職員は、業務を一人で抱えこむことなく、協働することで活性化を図る。業務を効率化させ、まずは教職員が活気に溢れ、明るくいいきよとした雰囲気になる。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は93.6%（昨年度より0.7ポイント↓）で数値指標を3.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばしていく。生徒の頑張りを生かして、認め励ます指導を推進することから、善い行いや努力をみとめる表彰を追加する。 学校全体がさらに明るい雰囲気となる諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 教職員がライフワークバランスを常に心がけるよう呼びかけ、心身ともに健康を維持できるようにする。</p>
<p>4 - (1) 教職員の資質・ 能力の向上</p>	<p>A14 分かる授業や生徒にきめ細かな 指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実を図り、宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開を目指す。「今日のめあて」を適切に提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげる。 ②ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動やICTの活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。 ③テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の指導にあたる。 ④テスト前にAIドリルの積極的活用を図り、意欲的に学習に臨ませる。 ⑤指導と評価の一体化を図りながら生徒の学習状況を把握することで、「努力を要する」生徒に対して適切な支援を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は89.3%（昨年度より1.6ポイント↓）で数値指標を0.7ポイント下回った。 【次年度の方針】 生徒の興味を喚起するような「本時の目標」の提示を行う。宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開を工夫し、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげる。また、定期テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の指導に当たる。</p>
<p>4 - (2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチーム となり、協力して業務に取り組ん でいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解を丁寧に図ることで、教職員全員が協力して業務に取り組む。 ②担当者による報告・連絡・相談を徹底し、必要に応じて全体への周知を図る。また、諸活動の実施後は取組の検証を行い、改善策を次に生かすことで、チームとしての質の向上を図る。 ③生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応には、SCMを中心にSC、校内教育センター支援員、学年や学級担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は97.9%（昨年度より7.4ポイント↑）で数値指標を7.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒理解や配慮を要する生徒の対応等において、学級担任が一人で抱え込むことのないよう、必要に応じて他機関の連携も図りながら、学年や学校体制で取り組んでいく。また、教職員の共通理解のもと行事等に取り組むとともに、互いに進捗状況を確認する。 報告・連絡・相談の徹底を継続し、チームとしての質の向上を図っていく。</p>
<p>4 - (3) 学校における働 き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の 効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答70%以上</p>	<p>①出勤記録の入力や適切なフレッシュデーの設定により、勤務時間の意識化を図る。 ②諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。 ③定期的にアンケートなどを実施し、業務改善を図る。また、校務運営委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。 ④部活動顧問を複数配置し、ローテーションで指導にあたる。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は66.7%（昨年度より5.0ポイント↓）で数値指標を3.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 来年度も引き続き、拡充項目とし強化を図っていく。 勤務超過時間が60時間を超える教職員に業務の効率化を呼びかけるとともに、全職員に対し、タイムマネジメントの必要性を推奨する。学年ごとのフレッシュデイを設けるなどし、実際に機能するよう促していく。また、ICT・さくら連絡網等を活用し、学校業務のペーパーレス化の推奨、諸会議等の効率化、計画的・能率的運営をさらに推進する。 部活動の地域展開を進めていく。また、部活動終了時間を切り上げる日課を作成するなど、教育課程を工夫して業務の効率化を図っていく。</p>

<p>5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>○A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①公開授業、小中情報交換会（オンラインでも開催）、児童生徒指導強化連絡会、学校園あいさつ運動、学校園共通お弁当の日、小学6年生の中学校訪問など、小中の連携を図り、取組の充実を図る。 ②地域学校園教職員研修の授業研究を行い、その指導法や成果等を共有し教科指導力向上を目指し、次年度に向けた課題の洗い出しをする。 ③学校ホームページや学校だより、「地域協議会だより」や「清原地域学校園だより」において、小中一貫教育や地域学校園の活動の様子を保護者や地域に周知する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は91.7%（昨年度より1.1ポイント↑）で数値指標を1.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 今まで実施していた行事等も見直しを図りながら、小中連携については、引き続き持続可能な取組を行っていく。特に小中合同のあいさつ運動や小6中学校訪問などを通して、子どもたちの意識を高めていく。また、今後、種々たよりやホームページ等を通して保護者や地域に向けたPR活動を行う。要請訪問等を公開し、小中で授業を見せ合うことで学校園での授業力向上に努める。</p>
<p>5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5 - (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①清原中学校地域協議会の協力を得て、図書館等のボランティア、家庭科ミシンボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。 ②各学年のクリーン活動やとびやま城址跡公園ボランティア清掃、学校敷地内の緑化環境整備をPTAや地域と協力して行い、運営の充実を図る。 ③下校指導をPTAや地域協議会と連携して実施し、生徒の安全確保の協力を得る。 ④「地域未来会議」を12月に実施し、清原地域の未来について生徒と地域、行政機関と協議する場での話し合いを通して、郷土を愛し地域の未来を創造しようとする生徒の育成に努める。 ⑤地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は93.8%（昨年度より4.4ポイント↓）で数値指標を3.8ポイント上回った。保護者の肯定的回答は88.6%（昨年度より2.5ポイント↑）で数値指標を1.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き、PTAはボランティアを募集して活動していく。 活動については、本年度同様、校内や地域の環境整備作業を中心に地域協議会、PTAと連携を図って実施する。また、地域連携教職員が主務者となり、「地域未来会議」や各種地域ボランティア活動をコーディネートしていく。それらの様子を学校だよりやホームページを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。</p>
<p>6 - (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%</p>	<p>①毎月1回の安全点検を丁寧にを行い、危険箇所の早期発見を心がけ、早期対応を図る。 ②来校者をチェックし、名札の着用を求めるとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ③台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は93.8%（昨年度より2.5ポイント↓）で数値指標を6.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、月1回の定期安全点検や災害発生前後の安全点検を丁寧にを行い、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。来校者に対しても防犯カメラや声掛け等で確認を行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。</p>
<p>6 - (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①生徒が授業や家庭持ち帰りにおいて、タブレットを快適に使用できるよう適切に管理・運営する。 ②職員室の棚にデジタルカメラ、書画カメラや、DVDプレーヤー、CDラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は97.9%（昨年度より3.6ポイント↑）で数値指標を7.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 授業の充実、業務の効率化にデジタル（タブレット、ミライム、校務支援システム、学習情報システム、さくら連絡網等）を有効的に活用する。そのためにICT支援員、ICT主任を中心に設定、保管、整備等を定期的かつ確実にを行う。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上 B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>①あいさつの大切さはもとより、あいさつの声飛び交う明るい学校づくりの一端を担うという意識をもたせ、朝の会や帰りの会時、授業開始時・終了時、給食時のあいさつを徹底し、習慣化させる。 ②教職員が自ら率先してあいさつを行う。 ③学年委員会を中心としたあいさつ運動を、週1回程度実施する。 ④校内での来客や、校外の交通指導等でお世話になるPTAや地域の方々にもあいさつができるよう促す。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は97.3%（昨年度と同様）で数値指標を2.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員が自ら率先してあいさつを行い、①の取組を中心に、生徒へのあいさつと会釈の励行を重点的に推進する。あいさつの大切さはもとより、あいさつの声飛び交う明るい学校づくりの一環として担うよう意識を高める。また、定期的にあいさつ強化週間を設定し、生徒会と学年委員会を中心に、生徒を主体としたあいさつ運動を工夫する。 B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は95.2%（昨年度より1.1ポイント↓）で数値指標を5.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 定期的に生活を振り返る機会を設定し、教員から良い行動を承認する。教職員の指導だけではなく、生徒会活動を活性化し、本年度実施したように、生徒が主体となって、きまりやマナーを見直したり守って生活する啓発活動を行う。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B3 生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>①各学年最初のガイダンスにおいて、具体的な家庭学習の仕方を指導する。また、学年だよりで保護者にも見守りを依頼し、家庭の協力を得る。</p> <p>②学習委員会が中心となり、自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを行う。また優秀な自主学習ノートの展示を行う。</p> <p>③自主学習ノートの確認を朝の時間を利用して学年体制で行う。未提出の生徒や取組が不十分な生徒には、学級担任が学習の仕方等の個別指導を行い、内容の充実を図る。</p> <p>④eライブラリーの家庭学習での活用を図る。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は77.0%で（昨年度より2.1ポイント↓）数値指標13.0ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。家庭学習への意欲を向上させるために、1学年から家庭学習の大切さや学習方法を学ばせ、学習委員や学級担任と連携しながら、効果的な学習方法や自分に合った学習方法を身に付けさせる。また、保護者会等の機会を生かし、家庭での協力を仰ぎ、家庭学習の定着を図る。3学年になると、達成状況が上がっているため、1年生の時から進路指導と結び付けて指導していく。</p>
	<p>B4 生徒は、緑化活動やクリーン活動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上</p>	<p>①緑化委員会による花壇の整備や水やり、中庭の緑化環境を充実させる。また、緑化委員の取組として校内掲示板で周知する。</p> <p>②学年ごとの校内クリーン活動を年1回と、とびやま城址跡清掃ボランティアを行い、事後の振り返りを行う。美化委員もTV放送等を利用し、活動の振り返りを伝え、環境美化の意欲を高め、生徒がより主体的に活動が行えるように働きかける。</p> <p>③特色ある学校づくりの一端として、1学年の総合的な学習の時間における草花栽培活動を充実させ、生徒の自主的・主体的活動を促すようにする。</p> <p>④各クラスで植物を育てる。昇降口や渡り廊下にまとめて植物を並べ、日直管理にして全員が関わるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は51.4%（昨年度より17.4ポイント↓）で数値指標を28.6ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③④の諸活動を緑化委員会や美化委員会の活動を中心に強化していく。校内クリーン活動や美化コンクールなど、全校生徒で活動する取組を継続、強化し、地域協議会やPTAと連携した活動も継続していく。活動の様子を写真で掲示するなど、活動の啓発も図っていく。</p>
	<p>○B5 生徒は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校している。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①年度初め、新入生に向けた交通安全指導の徹底と交通安全教室を年2回実施し、交通安全への意識を高める。また、定期的に登校指導や日頃の交通マナーを確認するとともに、生徒の通学状況及びLRT開通に伴う危険個所の把握に努める。</p> <p>②部活動終了後の日々の下校指導や、定期的な自転車点検を行うことで、安全な登下校ができるよう指導する。</p> <p>③交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い、安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。また、「交通安全週間」を設けることで、改めて交通ルールやマナー、危険個所を振り返れるよう指導する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は64.6%（昨年度より3.3ポイント↓）で数値指標を25.4ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、拡充項目とする。年2回の交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日常的に交通ルールやマナーを確認し、生徒の通学状況及び危険個所等の把握に努める。特に、年度当初に新入生に向けた交通安全指導を強化する。</p> <p>交通安全委員の取組を継続し、生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行うとともに、下校時の反射ベスト着用の徹底を図る。</p> <p>また、交通ルールを守れていない生徒の姿が見られた際は、全校放送で呼びかけたり、学級担任から話をしたりすることで、自らの交通マナーや危険個所を改めて振り返るよう指導するとともに、さくら連絡網を活用して保護者へも危険な状況について周知し、交通ルールを守ることに付いて家庭でも話題にしてもらえるようにする。</p>

【総合的な評価】（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

《全体》目標指数27項目のうち、15項目が目標指数を達成し、市中学校平均を上回った項目は63項目中、18項目であった。

課題としては、生徒と保護者のデジタル機器や図書等の活用の意識、緑化活動やクリーン活動の取組の意識、持続可能な社会についての関心度と交通ルールやマナー意識、学校における勤務時間を意識した業務の効率化であった。

《生徒》目標指数17項目のうち、8項目が目標指数を達成し、重点項目6項目のうち、3項目が目標指数を達成した。

目標数値指標に達することができなかった9項目のうち、課題としては、「デジタル機器等の活用」「家庭学習の習慣化」は重点目標でもあるため、ICTの有効活動や自主学習ノートやAIドリルを活用し、一歩踏み込んだ家庭学習の指導をしていく必要がある。具体的には、3年生になると達成状況が上がっているため、1年生の時から進路指導と結び付けて指導していく。

《教職員》目標指数9項目のうち、5項目が目標指数を達成し、市中学校平均を上回った項目は22項目中、9項目であった。重点項目7項目のうち、4項目は80～100%と良好な結果であった。業務改善（時間管理・業務の効率化）については、目標数値を達成することもできず、課題が残る結果であった。また、交通安全については、生徒数も多く、学区も広いことが影響しているが、64.6%と数値が低く、引き続き学校として大きく取り上げていかなければならない課題である。

《保護者》目標指数1項目は、88.6%であり、前年度を上回ったが、90.0%という目標を達成できなかった。18項目中、11項目で80%以上の肯定的回答を得た。また、重点項目5項目中、2項目で前年度を上回った。

しかし、「家庭学習の習慣化」については、昨年度よりやや上回ったものの67.5%という数値であった。保護者と学校とで連携し、生徒が意欲的に取り組めるよう家庭学習の習慣化を図っていききたい。また、「デジタル機器や図書等の活用」や「緑化活動やクリーン活動」については、取組や活動の周知に力を入れていきたい。

《地域住民》9項目中、7項目で前年度より上回り、良好な結果であった。市中学校平均を上回った項目は9項目中、5項目であった。多くの項目で高い肯定的回答を得たが、きまりやマナーについては、83.3%と他の項目と比べ、やや低い結果であった。

7 学校関係者評価

地域協議会等での意見、先生方への意見を以下にまとめた。

- ・生徒は元気に過ごしていると感じる。
- ・全体的に子どもたちは落ち着いている。非常に素直な生徒が多いと感じる。
- ・先生方が熱心に生徒達を指導されていると感じる。
- ・生徒は、きまりやマナーを守って生活をしていると感じている。
- ・生徒の安全、安心の確保が最優先と思う。通学路の安全点検、周辺の除草など地域協議会としても協力していければと思う。
- ・全体的に教職員の方々が熱心（教育相談、安全配慮、いじめ、あいさつ、チームで協力など）であることが見てとれる結果であった。また、危機感をもたれて対応していることに安心した。
- ・学校内では、よくあいさつをしてくれる。あいさつがいい印象がある。
- ・クリーン活動では、3年生がすごくよくやっていた。学校をきれいにしようとする意識が高かった。
- ・地域など学校外では、生徒本人が思うほど、あいさつができていないのではと考える。
- ・いじめについての把握の仕方がわかった。いじめアンケートを実施し、適切に対応していただいている。
- ・L R T グリーンスタジアム駅付近の下車し信号待ちの人と自転車通学の生徒の接触が怖いと感じることがある。
- ・生徒が日常的に行っている、リサイクルや緑化活動および残食を減らす等の行動が、当たり前のこととして定着している為、持続可能な社会の実現に向けた取組が特別な関心事とはならないのではないかと。
- ・交通安全について事故発生状況を図で示したものを教室掲示し、危険個所の注意喚起を図った。また、全校集会や学年集会では危険個所や事故現場の写真を用いて、清原中での登下校の指導を行った。

8 まとめと次年度に向けて（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

アンケート結果、学校関係者評価の結果を踏まえ、次年度の考え方、方向性を以下のようにする。

○「交通ルールやきまりやマナー」については、生徒自身が、交通ルールを「自分事」として捉えられていないことが考えられる。適切なタイミングでの指導や啓発ができなかったことが課題であるため、次年度は年度当初に生徒が自発的に交通ルールやマナーを守れるよう、視覚的・体験的な指導を充実させ、交通安全指導の強化を図っていく。

・働き方改革におけるタイムマネジメントについては、大きく意識改革させることができなかった。仕事の内容・量が減っていない中で、校務分掌の適切な配置と教職員への適切な仕事の分担がより必要となる。また、教職員へ時間を意識させるため、新たに職員室に時計を設置し、チャイム機能も活用していく。

部活動における顧問の複数配置でのローテーション指導は有効であったため、顧問内での連携をさらに進める。部活動への取組としては、日課表を見直し下校時刻の繰り上げを図っていく。さらに、働き方改革の視点からも部活動地域展開を進めていく。

○小中一貫教育の取組において、適切な引き継ぎ、情報交換の時間が必要であると感じる。小中一貫部会の研修内容の精選・見直しを図ったり、小学校との情報交換の実施方法を見直したりしていくことが重要となる。

・学校スローガン『G O A L L O U T ～一生懸命はかっこいい～』を活用し、掲示や行事の合言葉にするなど、効果的に取り入れ、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組む生徒の育成に引き続き努めていく。

○活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進を目指して、「前向きな気持ちをもって、粘り強く」をモットーに、生徒を前面に出し、見守り・見届けながら、教育活動を実践していく。生徒・保護者に対しては、「明るく、優しく、丁寧に」接していくことを常に意識し、「チーム清原」一丸となって充実した教育活動、「笑顔と活力あふれる学校づくり」を推進していく。

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努めていく。

・緑に恵まれた「清原の杜」の環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努めていく。

・さくら連絡網や学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進していく。